

「ザ・シンポジウムみなとin小樽」を開催

令和元年11月27日（水）に北海道小樽市において、小樽港の開基150周年・開港120周年を記念して「ザ・シンポジウムみなとin小樽」を開催しました。

このシンポジウムは、フェリー、RORO船、コンテナ船、クルーズ船など様々な船が往来する「船客万来」の小樽港が、多様な機能に効率的に対応する「機能的な港湾」として担う役割や将来像について考えるためのもので、市民ら約400名が参加しました。

はじめに基調講演として、小樽市総合博物館の石川直章館長が『近代化を運んだ港』と題し、小樽港のこれまでの歩みを振り返りながら、港湾の近代化を運んだ小樽港の功績を紹介しました。

次に、パネルディスカッションでは、小樽商科大学の李濟民教授をコーディネーターに、迫俊哉小樽市長、北海商科大学の田村亨教授、北海道港運協会小樽支部の大田秀樹支部長、商船三井客船営業グループの富田瑞穂課長代理及び小樽商工会議所女性会の小笠原眞結美副会長がパネリストとして参加し、小樽港が果たすべき役割とそのために必要な取組について熱心な議論が交わされました。



石川館長

基調講演の様子



パネルディスカッションの様子



【コーディネーター】
李教授



迫市長



田村教授



大田支部長



富田課長代理



小笠原副会長

(港湾空港部 港湾計画課)

海上コンテナによる小口混載輸出の実証実験 ～台湾で道産品の販売会開催中～

北海道開発局では、北海道総合開発計画における道産食品輸出額1,500億円
の達成に向けて「農水産物輸出促進基盤整備事業」による屋根付き岸壁を整備
するなど、輸出拡大に向け取組を進めております。

このたび、その一環として道産食品の輸出拡大に向けた輸送コストや海外の
ニーズ調査を目的に、海上コンテナによる小口貨物の混載輸出及び海外でのテ
スト販売等の実証実験を行いました。

本実験では、令和元年8月より試験運用を開始した「道産食品輸出チャンネル」※
を通じて集まった道内企業29社（66品目）の商品を9月から11月にか
けて、苫小牧港発の計5本の海上コンテナ
による小口混載便を利用して台湾の基隆
（キールン）港まで輸出しました。

対象商品は令和2年1月に販売会場
である台中市のアンテナショップにす
べて到着し、順次販売を開始してい
ます。とりわけオホーツク産の長
芋や別海町産の生乳を使ったアイ
スクリームなどが評判で、すでに
売り切れになっています。

そのほかにも、枝幸町産冷凍ホ
タテ貝柱、スイートポテト、シ
ュークリームなどの人気商品が
あり、販売は令和2年2月末まで
実施する予定で、店舗販売のほ
か、海外輸入企業との商談も実
施する予定です。

なお、道産食品の輸出拡大に当
たっては、輸出先のニーズ把握が
困難、通関等による厳しい輸入
規制、高額な輸送コスト等の多
くの課題を抱えており、こうした
課題の解決に向けて、一般社
団法人北海道国際流通機構の協
力を頂きながら、本年度、実証
実験を行っています。

※道産食品輸出チャンネル：

道産食品の輸出拡大のために、道内企業の輸出ニーズ
を集約し、海外バイヤーとのマッチングを可能にするサイト。



苫小牧で行われたパッキング作業



販売会場である台中市のアンテナショップ



「道産食品輸出チャンネル」を利用した商談

(港湾空港部 港湾計画課)

ご存じですか？～照明成長戦略2020～

2020年を迎え、オリンピックイヤーとも言われていますが、「**照明成長戦略2020**」という文言は、ご存じでしょうか？

「**新成長戦略**」（平成22年6月18日閣議決定）、「**エネルギー基本計画**」（平成22年6月18日閣議決定）において、グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大国戦略の柱のひとつとして、高効率次世代照明（LED照明等）を2020年までにフロー（出荷）で100%、2030年までにストック（設置）で100%普及させる目標を掲げています。

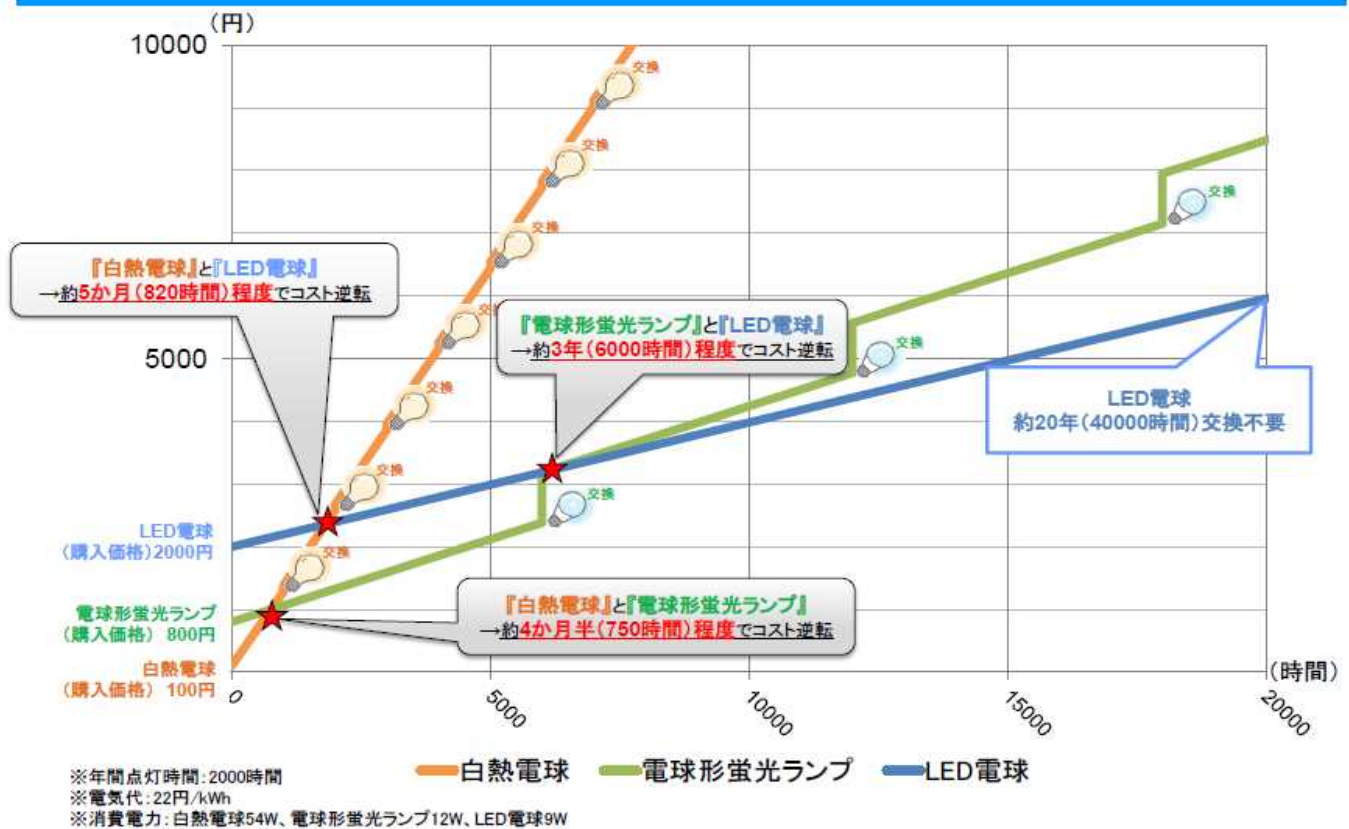
また、「**日本再生戦略**」（平成24年7月31日閣議決定）において、2020年までに公的設備・施設のLED等高効率照明の導入率100%達成の方針が示されています。

各港湾管理者におかれましては、港湾道路などの照明灯に白熱電球及び電球形蛍光ランプを使用されているところもあると思います。

港湾施設の老朽化による補修の予算要求も必須ですが、照明成長戦略2020問題も考慮して、計画的な対策を講ずることが必要です。

※大手メーカーが蛍光灯照明器具の生産を終了させています。

(参考) 白熱電球・電球形蛍光ランプ・LED電球のコスト比較



出典元：経済産業省 商務情報政策局会議資料より
(港湾空港部 港湾行政課)

2020.4.24 ウポポイがオープンします！

2020年4月24日、**ウポポイ（民族共生象徴空間）**がオープンします。アイヌ文化の復興・発展のため、**国立アイヌ民族博物館**（北海道初の国立博物館）や、体験交流ホール、工房等の施設を備え、子供から大人までアイヌの世界観・自然観等を学ぶことができる**国立民族共生公園**が整備されます。北海道白老町のポロト湖畔に広がるウポポイにおいて、アイヌ文化の多彩な魅力に様々な角度から触れることができます。



体験交流ホールの外観



体験交流ホール(後部座席から)



工房の外観



伝統芸能体験

港湾管理者による記事投稿を募集します！

次号より、各港湾管理者へ記事投稿を募集し、掲載していきます。内容は、各港湾管理者においてPRしたいことや、市・町・管理組合のアピールでも構いません。情報を発信・共有していきながら、「世界の北海道」を目指して、港湾の秩序ある整備と適正な運営を図っていきましょう。

港湾管理者専用アドレス

港湾管理者の皆様からの掲載要望やご提案等・その他業務上の疑問等を引き続きお待ちしております。

✉ hkd-ky-kouwan-kougyo@gxb.mlit.go.jp

(港湾空港部 港湾行政課)